

歴史・文化財学方法論Ⅰ

必修 2単位

山内 和也・藤澤 明

1. 授業の概要(ねらい)

歴史や文化財を理解するためには、モノと文献と記憶を総合的に研究することが必要です。その一方で、出土文字資料・考古資料・絵画資料・史跡・景観等を含む文化財・文化遺産をよく理解し、その保護に十分な注意をはらい、活用に努める必要が高まっています。この授業ではモノを中心として取り巻く学問との関係を実例を挙げて紹介するとともに、皆さんの研究に役立つ視点と方法を学びます。

2. 授業の到達目標

歴史や文化財を理解するための基本資料であるモノと文献と記憶の種類と重要性を認識し、総合的に研究する基礎的な能力を養うことを目指します。

3. 成績評価の方法および基準

課題レポート2回(各50%)

4. 教科書・参考文献

教科書

なし

参考文献

なし

必要な文献等の資料については、授業内で配布もしくは指示します。

5. 準備学修の内容

歴史の現場である史跡や博物館等に所蔵されている文化財や工芸品、美術作品、またこれまでに残されてきた建造物などに積極的に触れるよう心がけ、その重要性をどのように明らかに出来るかを自ら考えてください。

6. その他履修上の注意事項

この講義は藤澤と山内の2人の教員で実施します。

7. 授業内容

- 【第1回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー科学的調査ー(藤澤)
- 【第2回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー鎌倉大仏ー(藤澤)
- 【第3回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー正倉院の顔料ー(藤澤)
- 【第4回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー正倉院の染料ー(藤澤)
- 【第5回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー正倉院の接着剤ー(藤澤)
- 【第6回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー金工技法書1ー(藤澤)
- 【第7回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー金工技法書2ー(藤澤)
- 【第8回】 科学的調査と文献からどのように文化財を理解するかー三角縁神獸鏡の材料産地推定ー(藤澤)
- 【第9回】 文化財と歴史学の協働ーさまざまな歴史資料ー(山内)
- 【第10回】 文化財と歴史学の協働ー古代文字の解読ー(山内)
- 【第11回】 文化財と歴史学の協働ー玄奘が語るシルクロード1ー(山内)
- 【第12回】 文化財と歴史学の協働ー玄奘が語るシルクロード2ー(山内)(オンライン)
- 【第13回】 文化財と歴史学の協働ー文献史学と考古学1ー(山内)
- 【第14回】 文化財と歴史学の協働ー文献史学と考古学2ー(山内)
- 【第15回】 <まとめ>